

RSウイルス感染症

症状

- ・RSウイルスのRSとは「Respiratory Syncytial (=呼吸器の合胞体)」の略です。
- ・生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもがRSウイルスに感染するとされています。
- ・潜伏期間は主に4～6日といわれています。
- ・咳や鼻水、鼻づまり、発熱など、かぜの症状からはじまり、だんだん咳がひどくなり、ぜいぜいと息苦しくなってきます。
- ・発熱も4～7日と長くなることもあります。
- ・初めて感染した場合は重くなりやすく、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)では、細気管支炎、肺炎、無呼吸といった重篤な呼吸器症状を引き起こし入院治療を必要とすることがあります。
- ・繰り返し罹患し、かかればかかるほど症状は軽くなるといわれています。

治療

- ・効果のあるお薬はなく、対症療法が中心となります。

家庭で注意すること

- ・呼吸が苦しそうなときは背中をやさしくたたき、痰を出しやすくしましょう。
- ・からだを起こすように抱っこしてあげてください。
- ・鼻づまりのときは、鼻吸い器などで吸い取ってみてください。
- ・お部屋は適度に加湿してください。
- ・水分やミルク、母乳をこまめに与え、おしっこの量や回数に注意してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・水分が取れない、機嫌悪く顔色も悪い、咳やぜいぜいが強く眠れないといった症状の悪化は入院治療が必要となることがあります。すみやかに医療機関を受診しましょう。

アデノウイルス感染症

症状

- ・高熱が4～5日つづき、通常の「かぜ」よりは長引きます。
- ・アデノウイルスは、現在51の型が確認されており、そのうち、3型4型などがひきおこす咽頭結膜熱(プール熱)は、のどの腫れ、目ヤニや充血、高熱を訴える代表的症状です。

治療

- ・熱やのどの痛みをおさえる治療をします。ウイルスであり、抗生物質は効きません。

家庭で注意すること

- ・熱が長引きますが、比較的全身状態は保たれていることも多く、解熱剤の使いすぎに注意しましょう。
- ・食事は口当たりのよいものを与え、経口補水液や味噌汁、冷めたスープなど、水分と塩分を補給します。

登園・登校のめやす

- ・発熱など症状が消失してから、2日を経過した後可能となります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・下痢を伴ったり、のどが痛いなどで、口から何も飲めない時。
- ・元気がなく、ぐったりしている時。

救急車を呼ぶめやす

- ・熱は上下しますので、緊急性の目安になりません。
- ・けいれんなどで状態の急変した場合に考慮します。

ウイルス性胃腸炎

症状

- ・突然の嘔吐、水のような下痢(薄い黄色から白色)がみられます。
- ・ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルスなど、原因が検査で分かることもありますが、いずれも治療は同様です。
- ・ロタウイルスは乳児期にワクチンを接種することで予防ができます。

治療

- ・下痢が問題ではなく、脱水を防ぐことが肝要です。
- ・下痢や嘔吐で失われた塩分と水分を少しずつ与えるイメージで、スプーンなどで根気よくあたえます。
- ・オーエスワン® アクアライト®OSRなどの経口補水液で水分補給ができれば、その後は、乳児では、母乳や人工乳、離乳後の幼児であれば、おかゆなどの炭水化物からはじめ、下痢であっても、できるだけ絶食期間を短くするようにします。

家庭で注意すること

- ・吐物が付着したり、汚物の処理による接触感染です。手洗いや吐物汚物の処理が重要です。

登園・登校のめやす

- ・嘔吐がないこと。下痢の回数もおさまり、通常の食事がとれるようになれば可能です。

急患診療センターを受診するめやす

- ・吐き続け、口から何も飲めない時。
- ・顔色が青ざめ、元気がない時。
- ・おしっこもせず、爪を圧迫して戻しても、白からピンクにならない時。

救急車を呼ぶめやす

- ・下痢に伴ってけいれんが見られたら救急車を呼んでください。

百日咳

症状

- ・百日咳菌による感染症で、特有な発作性の連続する咳込みを特徴とします。
- ・最初は普通の風邪症状から始まり、1～2週間のうちに次第に咳が多くなり、顔を真っ赤に激しく咳込むようになります。
- ・この特有な発作性の連続する咳込みは2～3週間位持続します。
- ・回復後も風邪などの刺激で特有な咳込み発作が出現することがあります。
- ・通常発熱はないか軽微です。乳児期では激しい咳込みのために呼吸ができなくなることもあります。
- ・また、新生児～3カ月未満の乳児では典型的な咳発作にならずに、無呼吸、嘔吐、けいれんなどの症状が主体となる場合もあり注意が必要です。

治療

- ・百日咳に有効な抗菌剤と咳止めを内服します。
- ・無呼吸などの重症時は入院治療が必要となります。

家庭で注意すること

- ・咳嗽に伴う嘔吐の予防のために、1回量のミルクや食事は少量頻回に、また消化の良いものを与えましょう。
- ・気道の刺激予防のために、たばこの煙や温度変化などを避けましょう。
- ・咳込みが軽くなり、食欲や機嫌が改善すれば入浴は可能です。
- ・新生児期～乳児期は重症になりやすいのでうつさないように注意しましょう！

登園・登校のめやす

- ・特有の咳が消失するまで(2～3週間以上かかると考えてください)
- ・または5日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで休ませてください。

予防

- ・四種混合ワクチンが効果があります。
- ・適応年齢(生後3ヶ月から接種可能)になったら積極的に接種いたしましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・咳込み発作が激しく息が止まりそうになる時
- ・咳込みでの嘔吐が頻繁な時
- ・発熱が続く時

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
<http://www.niigata-er.org>

溶連菌感染症

症状

- ・溶血性連鎖球菌(略して溶連菌)という細菌による感染症です。
- ・主な症状は、発熱やのどの痛みですが、体や手足にかゆい発疹がでることもあります。
- ・病初期には吐き気を伴うこともあります。
- ・感染してからだいたい2～4日で症状がでます。

治療

- ・この感染が疑わしい場合は迅速検査(10分以内で結果がでます)などで確認し、抗生物質の内服で治療します。
- ・お薬を飲み始めると、1～2日で熱が下がり、のどの痛みもやわらぎますが、すぐに止めると再発したりするので10～14日間飲み続ける必要があります。
- ・感染後3～4週後に心臓弁膜に障害などを起こすリウマチ熱や、急性糸球体腎炎といった合併症を起こすことがあります。
- ・感染後2～4週で検尿をして血尿がでていないか確認します。
- ・溶連菌感染症は、繰り返しかかることもあります。
- ・大人になってもかかります。家庭でのどの痛みが強い方は注意が必要です。

家庭で注意すること

- ・食事はのどに刺激の強いものは避け、のどごしがよい食べ物にしてあげてください。
- ・熱が下がれば、お風呂に入っても特に問題はありません。

登園・登校の基準

- ・登園、登校は抗生剤内服後24時間経てば可能とされています。
- ・許可証が必要ですので主治医に相談してください。

急患診療センターを受診するめやす

・お薬(抗生物質)を飲み始めて2～3日たっても熱が下がらず、のどの痛みも消えないようでしたら、医療機関を再受診するか、急患診療センターを受診してください。お薬が効いていないこともありますし、ほかの感染症が合併している可能性もあります。

熱性けいれん

症状

- ・発熱に伴っておこる“ひきつけ”のことを言います。
- ・急激に熱が上がる時に起こりやすいです。
- ・子どもの7～8%がかかる病気でそれほど珍しい病気ではありません。
- ・年齢的には、1才～5才ごろまでが好発年齢です。
- ・“ひきつけ”は発熱後24時間以内に起こることが多く、発作の持続時間は5分以内に治まること多くて、10分を超えることは少ないです。

家庭で注意すること

- ・あわてない！（命に関わることはまずありません。）
- ・安静に！（口の中にもものを入れない。あわてて抱き上げたり、揺すったりしない。大声で呼ばない。）
- ・嘔吐に注意！（吐きそうになったら、体を横に向けましょう。）
- ・よく観察しましょう！（“ひきつけ”た時間は？“ひきつけ”はどんな様子だった？熱は？）

予防

- ・一般的に“ひきつけ”を2回以上起こしている子どもには、けいれん予防の坐剤（ジアゼパム）などを使用して予防します。
- ・使用に関してはかかりつけの先生とよく相談しておきましょう。

予防接種

- ・熱性けいれんの既往があっても予防接種は禁忌ではありません。
- ・体調が良い時に、かかりつけの先生と相談して積極的に接種しましょう。

急患診療センターを受診するめやす

- ・けいれんが10分以上続く時
- ・けいれんが断続的に続く時
- ・けいれんが治まっても、呼びかけや痛みに対する反応が弱く、様子がおかしい時
- ・けいれんと共に嘔吐を繰り返す時
- ・けいれんが治まった後に、まひの出現や体の動きがおかしい時
(場合によっては救急車も必要です)

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>

突発性発疹

症状

- ・急に発熱し、解熱後に体を中心に発疹を生じる感染症です。
- ・ヒトヘルペスウイルス6(HHV6),7(HHV7)の感染によって発症します。
- ・発症年齢は、1歳未満が多く、3歳までには95%以上の子どもが抗体陽性(抵抗力を持つこと)になります。
- ・原因ウイルスは2種類ありますが、最初に感染して発熱と発疹を生じるのは、HHV6で、1歳以後に感染して同様の症状を生じるのは、HHV7とされています。
- ・感染しても発症するのは60~80%で、残りの20~40%は症状が出ません(不顕性感染と言います)。
- ・38~40℃の発熱が数日間(多くは3日間)続いた後に解熱し、同時に淡い赤から濃い赤色の発疹が全身に出現するのが特徴です。
- ・その発疹は、かゆみを伴うこともありますが、数日で消失します。
- ・合併症は、下痢、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがみとめられますが、稀には、熱性けいれん、脳炎、劇症肝炎などの重篤な合併症も報告されています。
- ・発熱時も機嫌が良好ですが、時には非常に不機嫌になることがあります。これは、軽い脳炎症状であろうと言われていますが、2~3日で回復します。
- ・感染源の多くは家族、特に母親です。なぜなら、この原因ウイルスである、HHV6,HHV7は、感染すると、症状が治まった後も唾液線、リンパ節などで生存し続けるからです(潜伏感染と言います)。
- ・その潜伏感染しているウイルスが、赤ちゃんに感染するといわれています。このため、患者さんに最も接触する機会の多い、母親が感染源になります。
- ・母親から感染しても、胎盤を通じて母親からもらった免疫力がある4ヶ月位までは発症しませんが、その免疫力が無くなる5ヶ月以後に感染が起こるとされています。

治療

- ・特別な治療法はありません。また、ワカチもありません。
- ・発熱して食欲低下、不機嫌などの症状があれば、解熱剤を使って下さい。

登園・登校のめやす

- ・解熱し、発疹が薄くなれば登園できます。

急患診療センターを受診するめやす

- ・熱性けいれんを生じやすい疾患です。5分以上けいれんが続くときは、医療機関をすぐに受診して下さい。
- ・発熱のみの時は、救急外来などの受診は不要です。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>

伝染性紅斑(リンゴ病)

症状

- ・パルボウイルスB19というウイルスによる感染症です。
- ・潜伏期は2～3週間です。
- ・症状は、赤いブツブツ(紅斑)が頬と上肢・下肢主体に出ることが特徴で、上肢・下肢はレース状になっていきます。
- ・症状が強いと体幹にも出現します。
- ・発疹は、通常1週間くらいで消えますが、再び出現することもあります。・発熱を伴ったりすることもあります。・小児では少ないです。
- ・成人では、関節痛を起こすこともありますが、リウマチなどと違い、自然に回復します。

治療

- ・パルボウイルスB19に効く薬剤はないので、治療は対症的になります。
- ・また、予防接種もありません。

家庭で注意すること

- ・妊婦が感染すると、胎児の異常(胎児水腫)や流産を起こすことがあります。
- ・溶血性貧血の患者さんが感染すると重い症状を起こすことがあります。

登園・登校のめやす

- ・発疹が出た時には、ほとんど感染力はないので、幼稚園・保育園の登園停止や学校の登校停止の疾患にはなっていません。

水痘（みずぼうそう）

症状

- ・水痘・帯状疱疹ウイルス感染により、水疱（水ぶくれ）を伴った紅色の発疹が、全身（体のみでなく頭皮や時に口の中にも）に出現する病気です。
- ・皮膚の症状は1週間くらいの経過で、赤い発疹～水疱～かさぶたへと変化します。
- ・経過中は、さまざまな段階の発疹が混在しています。
- ・潜伏期間は10～21日（多くは2週間程度）で、特徴的な皮膚症状のため、診断は容易です。
- ・神経節に潜伏感染したウイルスが将来再活性化すると、帯状疱疹を発症します。

治療

- ・発疹出現後早期（なるべく24時間以内）に、抗ウイルス薬（アシクロビル、バラシクロビル）を飲み始めると、症状持続期間を若干短くすることができます。
- ・発疹のかゆみと化膿予防のために、軟膏（フェノール・亜鉛華リニメント）を使用します。
- ・重症化の危険性が高い子ども（免疫を抑える薬を使用している場合など）は、水ぼうそう患者との接触後72時間以内にワクチンを接種、96時間以内に水痘に対する力価の高い免疫グロブリン製剤を使用、あるいは接触1週間後からアシクロビルを7日間内服するなどによって、発症予防や軽症化対策を取ります（詳しくは主治医に相談してください）。

家庭で注意すること

- ・かゆみを伴うため、かきこわさないように爪は短くしておくことを勧めます。赤ちゃんであれば手袋をするのもよいでしょう。
- ・全身の具合が悪くなければ、シャワーで皮膚を清潔にすると、かゆみの軽減や化膿予防につながります。
- ・口内炎ができて痛いときは、水分を中心に刺激の少ない、柔らかな食べ物を少しずつ与えてください。

登園・登校のめやす

- ・全ての発疹がかさぶたになるまでは出席停止となります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・高い熱が3-4日間続くととき。ぼんやりして元気がないとき。発疹が化膿したとき（赤く腫れて痛がる時）。

救急車を呼ぶめやす

- ・けいれんや意識状態の低下（呼びかけに対する反応が不良）を認めたとき。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>

ヘルパンギーナ

症状

- ・コクサッキーA群ウイルスが主な原因で、コクサッキーB群ウイルスやエコーウイルスも原因となる感染症で、夏に流行します。
- ・感染経路は飛沫感染で、潜伏期は3～5日です。
- ・症状は、高熱、口腔内(のどチンコの周囲)にできる小水疱・潰瘍などです。
- ・発熱は2～4日で解熱しますが、熱性けいれんを伴うこともあり、口腔内の痛みで飲食ができず脱水になることもあります。
- ・まれに無菌性髄膜炎や心筋炎を起こすことがあります。

治療

- ・ヘルパンギーナの原因のウイルスに効く薬剤はないので、治療は対症的になります。

家庭で注意すること

- ・口腔内の痛みが強い時には、刺激物を避けるなどの食事の配慮も必要です。

登園・登校のめやす

- ・登校・登園停止の疾患にはなっていませんが、発熱や飲食できない時は自宅での安静が必要です。

予防

- ・予防接種はありません。

急患診療センターを受診するめやす

- ・熱性けいれんの場合にはけいれんに対しての治療が必要になり、脱水の場合には輸液などが必要になります。その場合は急患診療センターなどを受診しましょう。

手足口病

症状

- ・コクサッキーウイルスやエンテロウイルス感染により、手のひら、足のうら、口の中（他におしり、ひざ、ひじなど）に数mmの水ぶくれや、紅色の発疹が出現する病気です。
- ・夏季に乳幼児の間で流行することが多く、潜伏期間は2～7日程度です。
- ・通常発熱はありませんが、時に高熱を伴うこともあります。
- ・手足の発疹は痛みませんが口内炎は痛みを伴い、食べられなくなることがあります。
- ・数日程度で水疱は吸収され、自然に軽快することが多い病気です。
- ・周囲の流行状況と症状から、診断は容易にできます。

治療

- ・症状を和らげる治療が中心となります（解熱薬、口内炎に対する軟膏、水分が取れない時の輸液など）。

家庭で注意すること

- ・水分を中心に刺激の少ない、柔らかな食べ物を少しずつ、根気強く与えてください。
- ・熱がなく元気であれば入浴は可能です。

登園・登校のめやす

- ・法律で定められた通園・登校禁止基準はありません。
- ・熱が下がって元気になれば通園・登校は可能です。
- ・通園・登校許可証提出に関しましては、地域や学校ごとの基準に従って対応してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・口内炎の痛みのため水分摂取ができない、高熱が続くなどで元気がないとき。
- ・髄膜炎の症状（高熱、頭痛、嘔吐）を認めるとき。

救急車を呼ぶめやす

- ・けいれんや、意識状態の低下（呼びかけに対する反応が不良）を認めたとき。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
<http://www.niigata-er.org>

クループ

症状

- ・ウイルス感染による炎症が声門周囲におよび、上気道の狭窄症状が出現し、犬が吠えるような特有な咳が出現します。
- ・声がかすれ、出なくなることもありますし、なかには強い呼吸困難のために入院治療が必要になることもあります。
- ・時に夜間になってから急に症状が増悪することがありますので注意が必要です。

治療

- ・吸入治療をして、上気道の狭窄症状の軽減をはかります。
- ・主にウイルス感染が原因のため抗菌剤は不要なことが多いですが、細菌感染が疑われた場合には投与されます。
- ・入院するような重症の場合には酸素投与などの治療も必要となります。

家庭で注意すること

- ・室内の加湿に注意しましょう。(加湿器や洗濯物など)
- ・水分の補給を十分にしましょう。(少量ずつ何度もあげましょう。)
- ・食事制限はありませんが、症状の強い時は消化の良い刺激の少ないものをあげましょう。
- ・症状が改善して元気になれば入浴は差し支えありません。

登園・登校のめやす

- ・症状が改善したらかかりつけの先生と相談して登園・登校してください。

急患診療センターを受診するめやす

- ・咳込みがひどく眠れない時
- ・息苦しさが増してきた時
- ・くちびるの色や顔色が悪くなった時
- ・水分があまり取れない時
- ・高熱が続いて元気がなくなってきた時など

おたふく風邪（ムンプス）

症状

- ・唾液をつくる唾液腺（耳たぶの周りの耳下腺）、（下あごの奥の顎下腺）がはれる病気です。
- ・おたふく風邪ウィルスの感染により発病します。発症年齢は、3～6歳が約60%を占めています。
- ・感染しても症状の出ない不顕性感染も約20%に認められます。
- ・飛沫感染し、潜伏期間は14～25日（平均14～18日）です。
- ・突然両側または片側の唾液腺腫脹を生じます。耳たぶの周囲にある耳下腺、下顎の奥にある顎下腺が腫れます。
- ・痛みを伴うことが多く、同時に発熱も認めます。その他、筋肉痛、食欲低下、倦怠感、頭痛を生じます。
- ・この耳下腺の腫脹は、発症3日位がピークで、7～10日で消失します。
- ・一般に、年齢が小さいほど、腫脹期間が短く、就学前の子どもは、5日前後で消失します。
- ・逆に年齢が高いほど、症状も多く、合併症の頻度も高くなります。
- ・かなりの痛みを伴うので、医療機関を受診されるほうがよいでしょう。

治療

- ・治療法はありません。症状に応じた対症療法が行われます。解熱・鎮痛剤などです。
- ・難聴という重大な合併症を防ぐ意味でも、ワクチン接種が重要です。
- ・MRワクチンと同様、1歳と年長さんの2回接種して下さい。効果は、90～95%以上です。

登園・登校のめやす

- ・登園、登校は、耳下腺の腫脹が完全になくなってからにして下さい。
- ・かかりつけ医に、許可書をもらう必要があります。

急患診療センターを受診するめやす

- ・基本的に救急外来に受診する必要はありません。
- ・解熱鎮痛剤で発熱、痛みなどを軽くしておけば、かかりつけ医を受診するだけで十分です。ただし、神経症状や聴力低下があるときは早期に受診してください。
- ・激しい頭痛、嘔吐を生じる髄膜炎が多く認められます。1～10%のヒトに発症していると言われていますが、軽症例が多く、後遺症を残すことは稀です。ただし、意識障害が加わった時は脳炎が疑われます。後遺症や死亡につながりますので、すぐに医療機関を受診して下さい。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
<http://www.niigata-er.org>